



景観 まちづくり 学習の 手引き

小学生のころから地域の景観に対する関心を高め、
豊かな感性を育みます。

本手引きと児童用テキストについて

景観まちづくり学習の目的

景観とは、地域の歴史、風土、文化、都市活動や日常生活などが目に見える形や雰囲気となって表れるものであり、良好な景観は潤いある魅力的で豊かな生活環境を創出するとともに郷土への愛着を育む地域の財産です。

良好な景観を守り、育て、創る景観まちづくりには長い時間が必要であり、また、行政だけではなく、市民や事業者の自覚に基づく主体的な関与が必要であることから、景観まちづくりの推進には、一人ひとりの景観に対する意識の啓発や知識の普及が重要となります。

景観まちづくり学習の実施により、幼少の頃から地域の景観に対する関心を高め、豊かな感性や自分たちのまちを大切に思う気持ちを育てることを目指します。

この手引きと児童用テキストについて

この景観まちづくり学習は、児童が自分たちのまちを題材にして、自分で課題や疑問を見つけ、調査・分析を行い、意見交換や発表を通して、地域の景観について考える機会を創るものです。そのため、小学校4年社会科「特色ある地いきと人々の暮らし」の学習での活用のほか、総合的な学習の時間などでも活用できるものとなっています。

また、この手引きとは別に、市では児童用のテキストとして「景観まちづくりノート」を用意しております。「景観まちづくりノート」は、本手引きに沿った活用のほか、児童が自主的に取り組む自主学習や自由研究の題材としての利用も可能です。

景観まちづくり学習の ながれ

()は総合的な学習の時間での段階を指します。

Step

1

テーマ設定（課題の設定）

普段の生活で児童が思い起こしやすいエリアを設定し、「好きな景観」、「守りたい景観」、「気になる景観」、「校歌で歌われる風景や場所」など、児童の関心や興味を引き出しやすいテーマを設定する。

Step

2

まち探検（情報収集）

Step1で設定したテーマをもとに、児童の印象に残る景観について、実際にまちを歩いたり、インターネットの地図情報を活用し、その場所の特徴や印象に残る理由について考察させ、「発見」としてまとめる。

Step

3

まち調査（情報収集）

Step2での「発見」をもとに、家族、近隣住民など身近な人に意見を聞いたり、市役所職員にまちづくりを行う理由や目標などについて質問するなど、児童の関心に合わせた情報収集を行い、理解を深める。

Step

4

情報の整理（整理・分析）

Step3までの過程で児童が得られた情報を整理し、発表の手法を決め、意見交換や発表の準備を行う。

Step

5

意見交換・発表（まとめ・表現）

児童がそれぞれの視点や感性でとらえた「発見」を発表しあうことで、児童が様々な意見に触れ、新たな「発見」を得る機会とする。

Step Up

探究心を絶やさないために

「より知りたい」「こうしたらどうだろう」という児童の自由な発想や関心の高まりを大切にし、必要な情報を提供するとともに、意見発表の機会の場を地域に広げ、地域のみんなで景観まちづくりについて考える機会の創出につなげる。



テーマ設定（課題の設定）

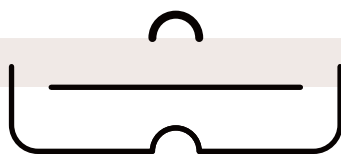
「日頃の何気ない風景やまち並みを意識して見つめ直すことにより、**景観に対する関心を引き出す。**」



ポイント

▲ 校区や、富山駅や西町周辺などの市の中心市街地など、児童が認識できるエリアで、興味や関心を持ちながら地域の景観について考えることができるテーマを設定する。

例：「地域にある好きな景観や不思議な景観はどこだろう」
「校歌に出てくる風景はどこだろう」
「クラスみんなに人気のある風景や場所はどこだろう」など



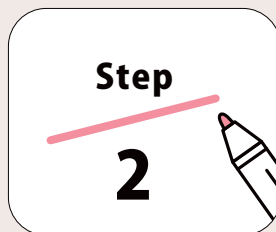
景観まちづくり学習のまとめ・発表は、児童の学年や習熟度に合わせて、様々な方法があります。

児童の関心や興味が高まり、楽しく学習を進めることができる媒体を選択してください。

まとめ・発表媒体の例

- かるたづくり
- マップづくり
- おすすめガイドブックづくり
- 模型づくり
- 俳句・短歌・スローガンで表現
- 絵画

など



まち探検（情報収集）

「身の回りの気になる景観を切り口に、児童の「**どうして**」「**なぜ**」などの「**興味・関心**」を引き出す。」



ポイント

「好き」「面白い」「変わっている」など、みんなに紹介したい気になる景観、場所や物について記録する。

その際、写真やイラストで記したり、場所の説明を加えるなど、その場所を知らない児童にも様子が伝わるように工夫する。

なぜ、その場所が好きなのか、面白いと思うのか、変わっていると思うのか、選んだ理由について考え、「発見」としてまとめる。

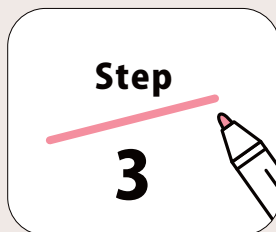
発展

なぜ、そのような景観となっているのか、まちづくりの理由や背景などがあるのか、推察してみる。

まち探検は、実際のまちを題材にして、情報の収集対象とするまち並みを発見することが目的です。そのため、実際のまち歩き以外にも、「登下校中で見つける」、「週末に家族で見つける」ほか、インターネット上の地図情報閲覧サービスなどを活用することもできます。

季節や天候、クラスや地域の実情を踏まえて実施してください。





まち調査（情報収集）

「疑問に思ったこと、さらに知りたいこと、調べたいことについてインターネットなどを利用して、**情報収集を行う**。また、まちのひとや家族にインタビューして、まちにどのような思いや考えを持っているのか調べ、**自分の考えとの相違や類似に気づく**。」



ポイント



自分が見つけた景観に対し、まちのひとや家族はどのように感じているのか調べる。



景観まちづくりの活動を行っている団体があれば、どうして活動を行っているのか、どのようなまちになればよいと思っているのかなど、活動への思いや背景を調べる。



発展

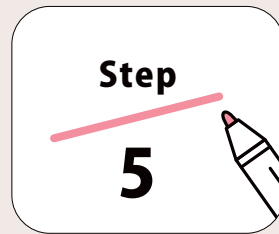
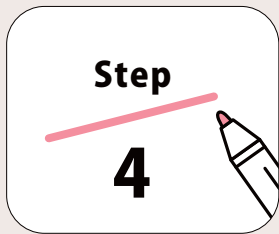
富山市の景観まちづくりの担当者に質問し、どのような計画があるのか、どのような取り組みをしているのかなど実際のまちづくりのルールについて調べる。



富山市の景観施策

富山市では、良好な景観の形成や保全のための計画となる「富山市景観まちづくり計画」に基づいて様々な事業を実施しています。

景観政策課職員が教室に出向いて、授業のテーマに沿って本市の景観まちづくりについての説明を行う「出前教室」も実施していますので、ぜひご活用ください。



情報の整理 (整理・分析)

意見交換・発表 (まとめ・表現)

「児童が調べたこと、わかったことをまとめ、**自分なりの表現で発表する。**
また、様々な意見に触れ、**自分とは異なる考え方や視点に気づく。」**



ポイント



自分が良いと思った景観でも、異なる印象を持っている人もいるなど、自分とは違う考え方やアイデアに触れ、同じ景観でも捉え方が違うことで、様々な評価・見方となることに気づく契機とする。



同じ景観でも、時間の変化や四季の変化などによって、異なった見え方や感じ方となることについて補足する。



景観を構成する要素は、建物や街路樹などの身近なものだけではなく、遠くに見える山や川、また、まちの音や匂いなどの人間が五感で感じる無形の要素もまちの特徴を生み出し、まちを印象づける重要な要素であることについて補足する。

(児童用の「景観まちづくりノート」では、「景観とは、地域独自の自然や歴史などの積み重ねによって、みんなで作ってきたまちの風景」と説明しています。)



発表を通して、学習開始前には気が付かなかったまちの魅力や課題を認識し、地域の景観に対する関心を高める。



Step Up

(探究心を絶やさないために)

みんなの
もっと知りたいに応えます



▲ 児童がまちづくりと関わり、関心を継続させるため、クラスでの発表のほか、地区センターでの展示や景観政策課ホームページでの公開など、広く発表する機会をつくりましょう。

▲ 学習を通して考えた、こうしたらもっと良いまちになる、こんなまちになったらいいなどの思いを、「学習の成果」としてまとめ、景観政策課に提案することも可能です。

【参考】

景観まちづくり学習のモデルプログラムや費用助成について国土交通省では、課題設定の参考となる「景観まちづくり学習」のモデルプログラムを作成しています。

景観まちづくり教育 🔍 で検索

<https://www.mlit.go.jp/crd/townscape/gakushu/sub2.htm>

また、一般財団法人都市文化振興材団では、このプログラムを活用した「景観まちづくり学習」に取り組む全国の小・中学校に対し、1校あたり10万円の費用助成も行っています。

景観まちづくり学習助成事業 🔍 で検索

<http://www.toshibunka.or.jp/josei.html>

発行

富山市活力都市創造部景観政策課

〒930-8510 富山市新桜町7-38

TEL 076-443-2106

keikan@city.toyama.lg.jp